

乳房炎に立ち向かう

おっぱいドツクのススメ

黄色ブドウ球菌の摘発と乳房炎原因菌の傾向を掴む

釧路東部事業センター 浜中家畜診療所 獣医師 戸山 悠

皆さんは搾乳立会を経験したこと
はありますか？搾乳立会とは、獣医
師が農場での搾乳に立ち会って搾乳
手順や搾乳機器の確認を行い、さら
には搾乳牛全頭を対象として乳汁
(4分房合乳や分房乳)を採取する
ことで黄色ブドウ球菌(以下SA)
など、農場で発生している乳房炎の
原因菌の傾向を掴むことを目的とし
ています。今回はこの『おっぱいドツ
ク』とも言える取り組みについて紹
介したいと思います。

搾乳立会で体細胞数のコントロールを
搾乳作業を行うにあたり『乳房炎』
は常に付きまとう課題の一つです。
その原因には様々な要因が関与して
おり、搾乳手順の問題や搾乳機器の
異常などが挙げられます。搾乳立会
は獣医師が搾乳時に農場にお邪魔し
て、搾乳手順や稼動している機器を
観察することによって、乳房炎を引



き起こす原因があれば減らしていく
ことを目的としています。

さらに、搾乳牛の乳汁サンプルを
採取して細菌検査を行うことで、①
SAを保有している牛の摘発、②そ
の農場で乳房炎を引き起こしている
原因菌の傾向を探ることも可能で
す。SAは皆さんご存知の通り、いっ
たん感染してしまうと完治するのが
難しく、治ったと思っても再発して
しまう厄介な原因菌として知られて
います。し

かも、他の
分房や他の
搾乳牛に伝
染してしま
うという特
徴を持って
います。S
Aは保菌牛
が乳房炎を
発症してい

なくても、知らない間に他の牛に感
染します。このようにひっそりと農
場内でSAが蔓延し、潜在的な乳房
炎を引き起こす事でバルク乳の体細
胞数を上げていることが多々ありま
す。したがって、バルク乳の体細胞
数をコントロールするためにもSA
保菌牛を把握しコントロールするこ
とは重要であると考えられます。

乳房炎にはSA以外にも厄介な原
因菌がありますが、特に皆さんの頭
を悩ませているのは環境性レンサ球
菌(以下OS)ではないでしょうか？
SAとは異なり他の分房や他の搾乳
牛に伝染する性質はありませんが、
治療が難しいものがあります。OS
の乳房炎で『どの軟膏を使っても治
らない』『いったん治ったと思っ
て軟膏を止めたら再発した』という経
験はありませんか？このような乳房
炎はもしかしたら、OSの中でも乳
房炎軟膏が届きにくい乳腺上皮細胞

に感染する
のが特徴の
『ウベリス』
という種類
によるもの
かも知れま
せん。ウベ
リスに対し
ては、他の
OSと同じ
治療を行っ



ても治療しにくい事が多いので、別
の対策が必要です。このウベリス
は、診療所で通常行っている検査で
はOSとして判定され治療されてい
ます。しかし、特殊な検査を行うこ
とでそのOSがウベリスであるか否
かが分かります。搾乳立会では、検
出されたOSがウベリスかどうかま
でを検査することも可能な場合があ
るので、OSに悩んでいる農場では
獣医師に相談してみてください。

【訂正】

本誌、2017年3月、第13号に掲
載しております記事『乳房炎部会より
乳房炎に立ち向かう』知らないとい
いマイコプラズマ性乳房炎』におい
て、筆者に誤りがございました。
正しくは『釧路東部事業センター
別家畜診療所 獣医師 金井奈穂子』
です。

以上のように訂正します。